

100万市民と仙台市医師会を結ぶ情報誌

# てとてとて



TAKE  
FREE

配布用です  
ご自由にお持ち  
帰りください

特集

## 求められる在宅医療 ～支える心が人をつなぐ～

支える No.17  
「起きる・立つ・歩く」をサポート

ワンポイントアドバイス  
帯状疱疹

ドクター訪問

読者からのご質問にお答えします!  
不眠症と薬について

連載 仙台歴史を歩く

CALENDAR

連載 鈴木江美のほっとシーン

仙台市医師会・仙台市医療センター

<http://www.sendai.miagi.med.or.jp/>

仙台市医師会



vol.  
45

2017年12月

特集

# 求められる在宅医療

## ～支える心が人をつなぐ～



# 在宅医療は多くの人が支えています

自宅で医療を受ける「在宅医療」が注目されています。「住み慣れた家で療養したい」という願いを、どのようにしたら支えられるか。医療と行政の取り組みを紹介します。

## 高齢化社会の在宅医療

「在宅医療」とは、医学的な理由で通院することが困難な患者さんの自宅に行き、在宅で行う医療のことです。医療機関側が計画的・定期的に診る「訪問診療」と、求めに応じて赴く「往診」があります。

対象となるのは、「脳卒中の後遺症で動けない」「慢性呼吸器疾患で、歩くと息切れがする」「認知症で外出すると目が離せず、家族の付き添いも困難」などの患者さんです。「難治性神経疾患」や「悪性腫瘍（がん）」の患者さんも含まれます。

患者さんの「家」を「入院」「外来」に次ぐ第三の診療場所とする在宅医

療は、介護の問題と切り離せません。高齢化が進む日本で今求められるのは、医療と介護が一体となつた地域包括ケアシステムです。

## かかりつけ医がサポート

在宅医療の担い手となつているのは「在宅を主とする医療機関」「外来診療が主体で、在宅も行う医療機関」「在宅も行う病院」の3種類です。複数の開業医や診療所が協力し、主治医の不在時の急な呼び出しに代わります。医療機関側が計画的・定期的に診る「訪問診療」と、求めに応じて赴く「往診」があります。

とはいっても、一般的には「どこに、

どのような在宅医療機関があるのか分かりにくい」のが現状で、情報の整備・公開が課題です。

ただ、表向きには在宅医療を掲げていなくても「長年診察した近隣の患者さんが歩けなくなつた時は往診に伺います」あるいは「専門の先生を紹介します」という先生（かかりつけ医）はかなりいらっしゃいます。

患者さんにとつて最大のメリットは、住み慣れた環境で家族に囲まれて

## 患者・家族からみたメリット

今後の医療選択の一つとして、考えていきたい在宅医療。そのメリット、デメリットについて言及したいと思います。



仙台市医師会在宅医療委員会 委員長  
会川クリニック内科呼吸器科 院長

会川 尚志 先生

過ごせること、自分らしい生活が続けられることです。

家族にとつても、病院に通うことなく患者さんとの日常生活を続けられます。受け入れ施設等を探したり、順番待ちをしたり、という煩わしさがありません。入院と比べて経済的負担も抑えられます。

自宅での看取りにも大きな意味があります。高齢者・超高齢者で延命措置を望まない場合は、処置を行わずに自然な死を家族で受け入れることができます。ここは「治療」を使命とする病院とは異なる点です。

余命が限られている悪性疾患等の場合、若い患者さんや、お子さんをお持ちの患者さんもいます。自宅にいることができれば、愛する家族との時間を少しでも長く持つことができます。

### 家族の負担を軽減

まず第一に、デメリットとして考えられるのは「何かあつた時に対応が遅れるのでは」という懸念ですが、実際のところ施設との差はほとんどありません。ある程度の対応は家族もできるようになりますし、急変時は

病院に支援を求められる連携がでています。

そして最大の問題は、家族の介護負担が大きいことです。これについては、主治医やケアマネージャーと相談し、介護資源・医療資源を最大限に活用していただけに尽きます。

訪問看護、訪問リハビリ、服薬指導薬

薬剤師など多くの専門家がサポートしてくれます。在宅サービスだけではなく、通所や短期入所もあります。レスパイト入院といって家族の介護疲労を軽減させる短期入院制度もあります。

医療・福祉・介護と多くの人の手が関わり、本人と家族を支えるのが今の在宅医療です。

## 在宅ケア連絡会

仙台市では約20年前から、医療・福祉・介護に携わる多職種が連携する「在宅ケア連絡会」が組織されています。現在は10地区の連絡会が市から補助金の交付を受け、研修会や情報交換会を行い、地域で「顔の見える関係」を築き、在宅ケアを推進しています。



### 「青葉区在宅ケア連絡会合同研修会」の様子(2017年9月26日)

「青葉北」「青葉東」「広瀬」地区の医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネージャー・介護職員・ヘルパーなど約120人が参加。この日は講演会で在宅医療・介護連携について理解を深め、懇親会で意見交換を行いました。



# 共に学び、支え合う地域に

在宅医療を支えるのは、医療・介護の専門職だけではあります。患者さんや家族のことを知る地域の人たちにも、その意義を理解し、連携を深めてもらいたい。仙台市は市民に向けた「在宅医療についての学び」を始めました。

## 各区で講演会を開催

自宅での療養生活には「どのような医療を受けられるか」「介護や看取りはどうなるか」、気がかりなことがたくさんあります。

仙台市は2017年度、在宅医療に携わる医師から話を聞く機会を各区で設けています。9月30日（土）に実施された講演会には、若林区の民生委員、児童委員と地域包括支援センターの職員約30人が参加しました。

## “医療の出前”をする意味

「在宅医療は“医療の出前”です。」

そんな親しみやすい言葉で始まった、若林区の講演会。講師は、外来診療と並行して30年以上在宅医療に取り組んでいる、今野外科整形外科院長の今野喜郎先生です。

「高齢者にとって入院生活はそれだけでストレスになります。すみやかに在宅に戻さないと、認知症や廃用症候群（寝たきり）が心配です」。在

宅医療経験豊富な先生による、症例を交えた話が進みます。

## 在宅医療の実際

医療内容については、在宅でも充実した医療——人工呼吸器による呼吸管理・酸素療法・気管切開・喀痰（かくたん）吸引・経管栄養・中心静脈栄養・麻薬による痛みの管理・褥瘡（じょくそう）治療など——が受けられること。定期的な訪問診療があること。点滴・胃ろうなどの延命処置は、本人と家族の希望が尊重されること、看取りについては、「自宅で終焉を

迎えたい」という本人の希望を叶え、「最後の時間を共有し、できるだけのことをして見送った」という家族の満足感につながるものであること。ただ長期化すると介護疲れを起こすので、ショートステイや訪問看護を上手に利用してほしい、とアドバイスがありました。

## チームプレイが要

最後に「在宅ケアは、医療機関・地域包括支援センター・訪問看護ステーション・ヘルパーステーション・訪問入浴や介護用品レンタルのサービス業者など多職種の連携がないと成立しません」と強調。

今野先生が世話人となり、20年前に発足した「若林在宅ケア連絡会」は、今も多くの医療・介護関係者が集い、勉強会や懇親会を通して横のつながりを深めています。

「今後は町内会・民生委員・社会福祉協議会との連携が課題となる」というメッセージで、講演が終わりました。

特集

# 求められる在宅医療

～支える心が人をつなぐ～



講師の今野喜郎先生



## 在宅医療講演会 若林区で開催された

遠見塚地域包括  
支援センター  
早坂恵美所長

森孝義  
若林区  
児童委員  
議員  
協議会  
会長  
民生委員



います。  
幸せだったと思  
らの最期…。  
声を聞きなが  
ワーウー騒ぐ  
隣の部屋で

### 参加者の声

往診してください  
本当に感謝して  
います。先生には  
さる先生には  
おかげで地  
域の連携が取  
れています。  
本音で思  
うます。



他にも…  
・町内に高齢で心配な方がいるので、今日のお話は参考になりました。  
・「最期は病院」と決めていたけれど、それは自分が不安だったから。よく考えてみます。  
・末期がんでも利用できるのだと知り、勉強になりました。

### ご参加ください(入場無料) > 市民向け講座 > 在宅医療講演会「最期まで自分らしく生きる」

日時 平成30年2月12日(月・祝) 午後1時～3時30分(受付 午後12時30分～)

場所 AER5階多目的ホール(仙台市中小企業活性化センター) 定員 400人(事前申込不要)

●基調講演「仙台市における在宅医療の実際」 講師 ひかりクリニック 院長 清治邦章先生

●パネルディスカッション「最期の時を住み慣れた場所で迎えるという選択」

パネリスト 宮城県看護協会 泉かむり訪問看護ステーション所長 佐々木裕子氏／ないとうクリニック居宅介護支援事業所管理者 主任介護支援専門員 佐藤秀樹氏／仙台市民生委員児童委員協議会 副会長 森孝義氏／仙台市医療センター 仙台オープン病院医療福祉相談室 八重樫祐子氏

コーディネーター 清治邦章先生



# 退院後の療養生活のご相談にのります



私たちが療養生活をお手伝いします  
(仙台オープン病院医療福祉相談室の皆さん)



医療ソーシャルワーカーと  
看護師による  
カンファレンス

当院は、24時間365日二次医療救急を行っている急性期病院です。以前なら治療が終了すれば、早期に退院していただきました。昨今の高齢化で一つの疾患が治癒しても医療や介護と付き合いながら日常生活を送る必要がある方が大勢います。入院早期からご病気に伴い起こりうる不安を相談員（医療ソーシャルワーカー）が伺い、主治医や看護師と共に、退院後の療養生活が安心して送れるよう準備をお手伝いしています。

当院は、24時間365日二次医療救急を行っている急性期病院です。以前なら治療が終了すれば、早期に退院していただきました。昨今の高齢化で一つの疾患が治癒しても医療や介護と付き合いながら日常生活を送る必要がある方が大勢います。入院早期からご病気に伴い起こりうる不安を相談員（医療ソーシャルワーカー）が伺い、主治医や看護師と共に、退院後の療養生活が安心して送れるよう準備をお手伝いしています。

## 医療ソーシャルワーカーの役割

仙台オープン病院には、5名の医療ソーシャルワーカーがあり、各病棟を担当

し、当院で早期に患者さんやご家族と最初の面接を行っています。「そんなんに早く？」と思われますが、今の病院は、「高度医療を提供する病院」「急性期の病院」「リハビリ専門の病院」など機能が分かれています。退院後の不安を少しでも軽くするために、早い段階から退院後の

イメージを持つていただき、計画的な退院支援が必要だと考えています。患者さんやご家族は、病気になって入院したことを受け止めるだけで精一杯、退院後のことまで思い及ばないのが普通ですから、早めにお話を聴かせてもらうことで不安軽減への対策を一緒に考えていくことが可能になると考えています。

また、介護サービスが必要な方々にはケアマネージャーをはじめ関係機関と連携をしながら療養生活の調整を行っています。

介護者の高齢化やお子さんを頼れない事情など不安は様々あるかと思いまが、地域密着型のサービス等も活用し、住み慣れたところで療養生活が送れるようにお手伝いを行っていますので、心配事がありましたら気軽にお声掛けいただければと思います。

## 在宅医療との連携

仙台オープン病院を退院する方の中割近くが自宅等に戻られます。その中



仙台オープン病院  
医療福祉相談室 係長  
八重樫 祐子 氏



# 小児専門の在宅医療があります

在宅医療を求めるのは、大人だけではありません。

近年、人工呼吸器などの医療機器を頼りに、在宅で治療を続ける子どもが増えていきます。退院後の子どもと家族を支える「小児専門在宅医療」が始動しました。

## 入院から在宅へ

「あおぞら診療所はつこり仙台」は東北初の「小児専門在宅医療機関」として2016年10月にスタートしました。現在、仙台・名取・船岡・黒川の患者さん宅を回っています。

患者さんは、NICU（新生児集中治療室）退院後、人工呼吸器・気管切開・経管栄養などの濃密な医療で命をつなぐ、在宅の重症心身障がい児です。

このような子どもたちが今とても増えています。酸素療法や人工呼吸器を必要とする学齢期の子は、2007年から2014年の7年間に倍増しました

（グラフ参照）。

医療の進歩により、日本の新生児死亡率は1000分の1にまで低下しています。多くのかけがえのない命が助かるようになつた一方で、医療機器頼りの命も増え、満床になつたNICUから呼吸器をつけたまま退院していく子が増えたのです。



特別支援学校医療的ケア実施体制  
状況調査結果（文部科学省）



寝たきりで言葉も出ない子どもたちですが、伝える手段と感じようとする心があれば、その豊かな精神世界に触ることができます。

あおぞら診療所は、家族の負担を少しでも軽くするため、月に2回の訪問診療と急変時の往診をしています。

退院は「家族の中で暮らせる」「医療費を削減できる」という大きな利点があります。医療費は入院時の15%にまで削減できる計算です。

寝たきりで言葉も出ない子どもたちですが、伝える手段と感じようとする心があれば、その豊かな精神世界に触ることができます。医療・福祉・教育面で相談にのってくれる「相談支援専門員」という専門職や、訪問看護師、ヘルパーさんの力も借り、それぞれの成長と発達を地



# 「起きる・立つ・歩く」をサポート

理学療法士

寝たきりにさせない



「理学療法士」の仕事は、身体機能が低下した患者さんに、体を動かすことで「起きる・立つ・歩く」など基本動作の改善を図ることです。仙台オープン病院には3人の理学療法士がいて、それぞれ消化器・呼吸器・循環器の入院患者さんを担当しています。

他にも、「食べる・着替える・トイレに行く」など日常生活動作の支援をする「作業療法士」と、摂食・嚥下機能の改善を目指す「言語聴覚士」が、入院患者さんのリハビリにあたっています。

手術や治療の後、安静時間が長くなると、心身の機能が落ちる「廃用症候群」になる危険性があります。高齢者は特に注意が必要で、寝たきりにならないためには早期からの介入が重要です。

## 退院後のQOL向上のために

私の担当する消化器病棟では、手術の翌日には痛みの出ない起き方・歩き方に挑戦します。なかなか厳しいですよね（笑）。

ただ、一方的なりハビリは行いません。患者さんによって、残された機能も違えば退院後の生活も違うからです。その方にとつて必要なことは何か、何ができるかQOL（生活の質）向上に役立つか、一つ一つ確認しながら進めることが大切です。

「足が上がらなくとも、杖をつけば歩けるようになる」「手すりや車椅子があれば、トイレに行ける」など、環境を整備することで動作レベル



仙台オープン病院  
リハビリテーション室  
渡邊 亮 氏

ルが上がる場合は、ご家族やケアマネさんも交えた場で提案します。

## 共有する心で

医師・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士によるカンファレンス。週1回行い、入院患者さんの情報共有と方針検討を行う。

この仕事をして15年になりますが、心掛けているのは「共有する心」です。患者さんの細かな変化を見逃さず、「こんなことができるようになりましたね」と成果を喜び、ご本人にも実感していただきます。その上で「これができるなら、次はあれができるといいですね。どうですか?」と、次の目標を共有します。こちら

の思いだけで進めるのはよくありません。深刻な病状で落ち込んでいる方には、まずその気持ちを受け止めるとこから始めます。

病院内の情報共有も重要です。看護師とは「Aさんが歩けるようになったから、今度トイレに行きたくなつたら連れて行ってあげてください」など連携を絶やさず、リハビリーション室のスタッフと管理栄養士の間では、週に1度のカンファレンスで情報を共有しています。

仙台オープン病院は来年4月に緩和ケア病棟を新設します。緩和ケアの分野でも、「足のむくみを取る」「息切れをしないようにする」など症状の改善や、「トイレは自分で行きたい」という患者さんの生活向上に向け、リハビリが必要になります。

一口に「失われた身体機能の回復」といつてもその幅は広く、さまざまなか分野で理学療法士の役割が求められているのです。



朝、ミーティングとカルテチェックを終えると、病棟に入りリハビリを開始。1日に10~12人の患者さんを回ります。

①

マッサージをしながら「痛いところはないですか?」と確認します。



②

手足の曲げ伸ばしをして体がほぐれたら車椅子に移るよう促します。



③

座って肩の上下や首回しを行った後「外の景色でも見ましょうか」と病室外に誘導します。

リハビリ中「おうちに帰ったら何が楽しみですか。おいしいもの食べましょうね」と笑顔と会話を絶やさない渡邊さん。退室時には「お昼は起きて食べてくださいね」と声掛けをします。

公益財団法人 仙台市医療センター

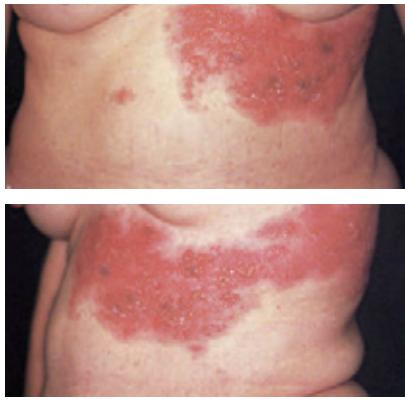
仙台オープン病院

仙台市宮城野区鶴ヶ谷5-22-1

tel.022-252-1111(代) [www.openhp.or.jp](http://www.openhp.or.jp)

# 帯状疱疹

東照宮駅前皮ふ科クリニック院長  
小澤 宏明先生



胸腹部帯状疱疹

厄介な神経痛に悩まされる帯状疱疹。重症化する人、しない人。数週間で治まる人、何年も残る人。この違いはどこにあるのでしょうか。

## 片側に出る神経痛と発疹

帯状疱疹は、神経の中にひそんでいた水ぼうそうのウイルスが、年数を経て再活性化する病気です。加齢や体力の低下でウイルスを押さえこむ力が弱まることで発症します。過労や風邪などで抵抗力が落ちると、若い人でも発症しますが、一般的には高齢者に多い病気です。

症状はピリピリチクチクした神経痛で始まり、2、3日後に発疹（水ぶくれ）が出来ます。頭・顔・体など場所はさまざまです。

治療は抗ウイルス薬の投与が基本です。すぐに投与すれば、長引かず重症化も抑えられるので、早めの対応がポイントになります。

身体のある部分、それも左右どちらかだけにピリピリチクチクと痛みを感じたら、帯状疱疹の可能性を疑い、同じ場所に発疹が出たら、すみやかに皮膚科を受診してください。抗ウイルス薬の他、炎症を和らげて皮膚を保護する塗り薬、痛み止めの薬、神経の回復を助けるビタミンB12などが処方されます。

発症後は栄養・休養・睡眠を十分にとり、温かくして過ごし、体力を保ちます。患部を温めた方が楽になるのであれば、温めて構いません。

背骨から左右両側に出ている神経のどちらか片方に沿って帯状に出るのが特徴です。

## 早めに抗ウイルス薬を

### 帯状疱疹後神経痛と再発

適切に薬を飲めば効果は高く、ウイルスは抑えられ免疫ができます。

神経痛の多くは数週間以内に消えますが、まれに長く残る場合があります。中には10年も続く方、痛くて眠れないと訴える方もいて、痛みをコントロールする専門医（ペインクリニック）を紹介することができます。この「帯状疱疹後神経痛」は、高齢者や体力の落ちている人、発疹の重症化した人に起きやすいとされていますが、個人差は大きいです。免疫のつき方にも差があり、帯状疱疹を再発する方もいます。自費にはなりますが、水ぼうそうの予防接種で再発を防止することができますので、ご相談ください。

帯状疱疹が他の人に「帯状疱疹として」うつる心配はありません。ただ、水ぶくれの中には生きたウイルスがいるので、免疫がない乳幼児に「水ぼうそうとして」うつる危険はあります。小さなお子さん、お孫さんへの接触は控えましょう。

# ドクター訪問

## 一目でわかる文章を



室井 和美先生  
(あおば通りかずみクリニック 院長)

出身は福島県会津若松市です。初期研修は塩釜市で、千葉、東京と勤め、震災の年、宮城(白石市)に戻つてきました。  
2016年、青葉区大町に婦人科・内科「あおば通りかずみクリニック」を開業、現在父と2人で診ています。仙台オープン病院や東北労災病院

## 音が聞こえる写真を



佐治 賢哉先生  
(佐治クリニック 副院長)

父が開いた「佐治外科循環器科」をバリアフリー対応の内科に建て替え、2017年に「佐治クリニック」(泉区鶴が丘)として開業、現在父と2人で診ています。仙台オープン病院や東北労災病院

で培つた経験を、今後は地域医療に役立てていきたいと考えています。

趣味はカメラです。10年くらい前、小さなデジカメで撮った家族写真で、思いがけず八木山動物公園写真コンクールの賞をいただいたことがあります。それがきっかけで一眼レフと動物園の年間パスポートを購入(笑)。その後、サルの写真で2度ほど受賞しましたが、なにせ相手は動物。思うような写真はなかなか撮れません。

尊敬する写真家・土門拳の作品は、静止画なのに「音」や「動き」がありあり

開業しました。思春期から老年期まで、幅広い年代が気軽に相談できる婦人科にしたいと思っています。「ちょっとかゆい」「おりものが気になる」など、ささいなことでも遠慮なくどうぞ。内科は男女を問わず診ています。

文章を読んだり書いたりするのが好きで、5、6年前から婦人科の話題をブログにまとめるようになりました。「受診時の豆知識」「女性特有のトラブルと対応」など、婦人科経験のない方や聞くのをためらっている方にも読んでいただきたい内容です。



▲かずみ先生のブログ  
[ameblo.jp/gjhw/](http://ameblo.jp/gjhw/)

と感じられる。そんな深い写真を撮りたいのです。数年前から山形の花笠まつりで「太鼓をたたく人」をテーマに撮り続けています。太鼓の音がとどろくよつたショットが目標です。



▲花笠まつりの作品から

# Q

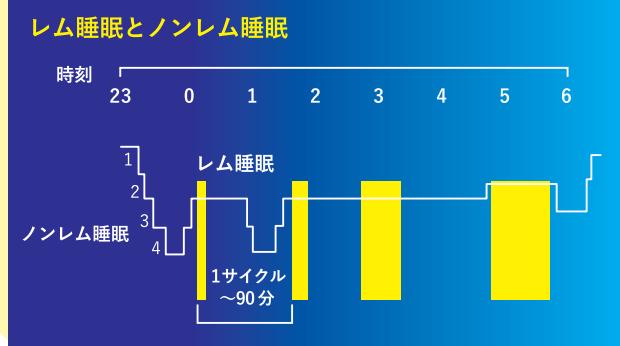
不眠のため「ベンゾジアゼピン系睡眠薬」を服用中です。最近「自然な眠りに近い新薬」があることを知りました。変更してもらった方がよいでしょうか?

# A

不眠症は「寝つきが悪い」「途中で目が覚める」「熟睡感がない」など、睡眠の開始と維持に関する障害です。

原因はさまざまですが、主に①精神生理的な不眠、②精神障害に伴う不眠、③薬物やアルコールの常用に伴う不眠、④睡眠によって引き起こされる呼吸障害に伴う不眠、があげられます。このうち②の精神障害(うつ病や統合失調症)による不眠は、睡眠薬による治療が不可欠です。しかし①の精神生理的な不眠の中には、必ずしも薬を必要としないケースも含まれます。年齢と共に眠りが浅くなるのは、自然な流れ(生理現象)だからです。

眠りにはレム睡眠とノンレム睡眠があり、ノンレム睡眠は深さが4段階あります。脳波で見ると、ノンレム睡眠は最初が深く、後に浅くなります(グラフ参照)。後半部分は年を取るとさらに浅くなるため、本人は「目が覚めた」「眠れない」と感じます。時計を見たり新聞配達の音を聞いたりしているので、眠っている自覚はないかもしれません、実はこの時も1~2段階の睡



# お答えします!

～読者から寄せられたご質問に答えるページです～



あおばの杜診療所  
院長 石井 一 先生

眠中なのです。

加齢で朝までぐっすりできなくても、寝つきが深ければ心配いりません。むしろ安易な睡眠薬の常用こそ問題です。現在使われている睡眠薬は20種類以上あり、中には筋弛緩作用のあるもの、依存性の高いものも含まれています。寝起きにふらつくような薬は、高齢者には危険です。服用を中断すると「反跳性(はんちょうせい)不眠」という副作用が出る薬もあります。

ご質問の新薬は、睡眠メカニズムに作用し、より自然に近い眠りに導くものです。ただその分、ベンゾジアゼピン系のような効き目(眠ったという自覚)は得られません。

まずは本当に薬が必要か、というところから見直してみてはいかがでしょうか(精神疾患などで睡眠薬を必要とする人は除外します)。「カフェイン、タバコ、パソコンや携帯の光刺激、音の刺激を排除する」「午前中に太陽の光を浴びる」「日中はなるべく起きて活動し、夜まとめて寝る」など、生活習慣の改善をします。それでも薬が必要であれば、自然なタイプの新薬が望ましいですが、切り替えには気長な取り組みが求められます。

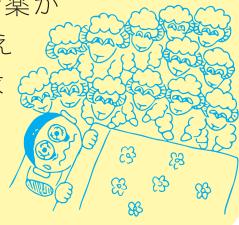


イラスト:石井先生

## ご質問募集中!

健康にまつわるご質問がある方は、住所、氏名、年齢、電話番号を明記の上、とじ込みの封筒へお送りください。なお、採用された方にはクオカードを差し上げます。

※いただいた中から編集部で選考の上、年2回発行の本誌で紹介します。

※いただいた個人情報は、掲載すること以外には使用いたしません。

# 医学館と青柳文庫

では、医学館に附設された青柳文庫とは、どの様なものであったろうか。この文庫の創始者青柳文蔵は磐井郡松川村(現岩手県)の人で、幼いころから利発で、書に親しみ大志を抱いて若くして江戸に遊学した。しかし元来が貧乏であったことから学問を修めるためにも金が必要であることを痛感、自らは苦学して公事師(現在の司法書士・弁護士のようなもの)となり財をなすことが出来、念願であった書籍の蒐集も2万巻を超える程となった。後年、文蔵は若き日の自分を振り返って、志があっても貧困により大成を望めない若者に広く書を与えて衆庶に縦覧させたいとの思いから蔵書2万巻余に幾何かの維持金を添えて藩に献納を願い出した。子宝に恵まれなかった文蔵は、「子無きは不幸であり、子があれど不肖ならば、子無きの如し。対して蔵書は賢い子孫であり、もし文庫を建てれば、父祖の名を不朽にするを得べし」との考えからであった。藩でもその篤志に感じて建築資材を給して医学館敷地内に間口三間奥行二間の土蔵を造り、蔵書を納め青柳館文庫(略して青柳文庫)と称した。文蔵が藩に寄贈した書籍の全容は2,885部20,050巻、都合9,937冊の蔵書で、内、医学書(漢方医書が主)は102部509冊で、その多くは実学書を含む経書・史書等であった。医学館ではそれまでの蔵書約3千冊余と併せて質量共に重層なものとなった。本来文蔵は藩学養賢堂への寄贈を願ったのであったが、公事師として利殖した不淨の金で作られた蔵書ということで、養賢堂側が難色を示したため医学館への寄贈となったという。このことは、当時の儒学者の思考を垣間見る出来事とも言えよう。

さて、文蔵は若き日の自分を重ね合わせて何人でも書籍を読むことが出来るようにとの意志を以て献納したことから、その意を汲んだ医学館では文庫を公開、養賢堂・医学館関係者のみならず、身分の差・貧富の差なく望めば誰でも閲覧に供することが出来た。現在東二番丁にある青柳文庫の記念碑には日本最初の公開図書館という記述があるが、日本最初には多少問題があるものの、公開図書館の走りであったことは間違いない。しかも、寄贈時の色々な事情があったとはいえ、医学館という専門性が強調される学問所内にあるにも関わらず、医学書以外の書籍を修めた文庫が構内に置かれ、専門外の人々にも公開されたということは画期的なことであり、それだけ文蔵の意志は学問に対する藩の意向に沿つたものであったことがうかがえよう。

では、明治維新後の青柳文庫の行く末はというとあまり芳しくない。維新後医学館は英語学校へと模様替えされ、土蔵造りの建物は戦災で焼失するまで残されていたが、蔵書の大半は廃棄されて紛失、三千冊余のみが宮城県図書館に残されているのみであることは残念である。

完

(仙臺郷土研究会 理事 渡邊 洋一)

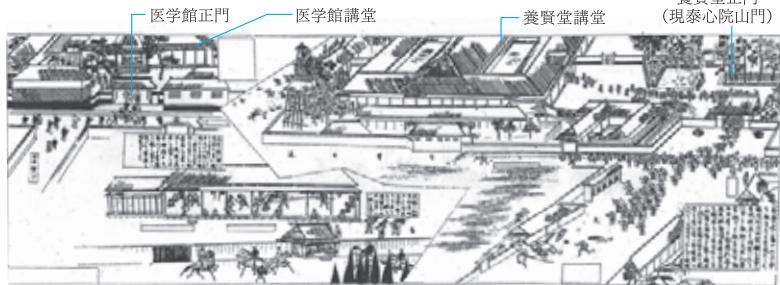


青柳文庫の案内板



医学館跡地の碑

下



仙臺年中行事絵巻十二 養賢堂附醫學館より

# CALENDAR

## 市民医学講座

仙台市・仙台市医師会

仙台市医療センター・仙台市救急医療事業団

〔問い合わせ〕仙台市医師会

TEL(227)1531

「市民医学講座」は、専門分野の第一人者から、わかりやすい解説と新しい情報を聞くことができる公開講座です。

毎月1回開催。各回の模様は、ケーブルテレビ( J : C O M 仙台キャベツ、C A T - V )で放送します。

1月18日(木)

乳がん

石田 孝宣先生

2月15日(木)

ロコモティブシンドローム

佐々木 信之先生

3月15日(木)

胃がんの最新治療

柿田 徹也先生

※開催場所は仙台市急患センター！  
仙台市医師会館2階ホール  
(仙台市若林区舟丁64-12)

※事前申し込みは必要ありません。

## 市民医学講座から

意外と多い仙腸関節由来の腰痛



9月21日  
JCHO仙台病院  
副院長 村上栄一先生

仙腸関節は、上半身の重みを和らげ、下肢の衝撃を吸収する重要な関節である。

原因不明の腰痛のうち、仙腸関節のずれが原因になっている例は多い。「お尻とそけい部の痛み」「痛む部位を1本指で特定できる」などの特徴があれば、仙腸関節由来を疑い、ブロック注射などの治療を行う。JCHO仙台病院腰痛・仙腸関節センターは全国から受診者が訪れている。



10月19日  
仙塩利府病院泌尿器科  
副部長 高橋則雄先生



11月16日  
東北医科薬科大学  
光学診療部  
教授兼気管支鏡センター長  
佐川元保先生

### タバコと肺への害

生涯1回以上尿路結石を患う日本人は約10人に1人と言われ、男性が多い。治療法は「自然排石」、「ESWL」、尿道から細い内視鏡を入れレーザーで碎石する「TUL」などがある。

5年以内の再発は半分以上。水分の摂取（水・番茶など）、バランスの良い食事、尿管のアルカリ化（海藻・果物など）で予防を。

タバコは発がん物質であり、がんや心筋梗塞をはじめとする多くの病気を引き起こす。受動喫煙も深刻な問題で、諸外国のような防止法案が日本にも必要。新型タバコにもさまざまな害がある。

喫煙は「ニコチン中毒」という病気で治療が可能。ニコチンガム、ニコチンパッч、飲み薬などの治療法があり、成功するまであきらめずチャレンジしてほしい。

## ケーブルテレビ放送番組

仙台市医師会では、ケーブルテレビを活用して医療と健康についての番組を放送しています。

12月

「漢方」



■「漢方」  
清水 雅行先生  
(12月の放送より)

1月

「すい臓がん」

2月

「不妊症」

3月

「泌尿器」

### 市民医学講座1時間番組

■J:COM仙台キャベツ(4チャンネル)  
火曜 19:00～ 金曜 21:00～  
土曜 8:00～

■CAT-V(4チャンネル)  
火曜 14:00～ 木曜 18:00～

### 仙台市医師会広報番組 (家庭の医学)30分番組

■J:COM仙台キャベツ(4チャンネル)  
月曜 21:30～ 水曜 19:30～  
木曜 20:30～ 金曜 19:30～

■CAT-V(4チャンネル)  
火曜 10:00～ 木曜 10:00～





## 澄んだ音色をみなさまへ 心ひとつのおカリナアンサンブル

鈴木江美の  
ほっと  
シーン

45



鈴木江美  
フォトグラファー  
／仙台区在住

聞こえてきたのはオカリナのメロディ。コスマス揺れる9月の終わり、音楽サークル「JOY VIE-NE」の練習日に伺いました。宮城県女医会の同好会として結成されて5年目、12月に行われる第6回医家芸術祭・音楽部門に向けて熱の入った練習が続いています。

初めはメトronomeのリズムに合わせて息を長く吹く、ロングトーンから。オカリナは温度、湿度の変化で音が変わる楽器のため、繊細な息づかいによってのみ美しい音を響かせてくれます。音色を聞きながらお互いに確認したりメモをとったり、また音程とリズムを合わせる楽しさと難しさに表情が引き締まつたりと、和やかな雰囲気



この道」のパート毎では、「もう少し音が寄り添うよう」とのアドバイスも。日の合図で息があつっていくと、調和の美しい音とリズムのチエツクが入り、楽曲

葉に、メンバーの笑顔の花がパッと咲きました！「練習を重ねて音がひとつになるのが一番の喜びですね」と、代表の吉田玲子先生。冬、12月のステージでは、心温まるオカリナの音色が響くことでしょう。

のなかにひた向きさが伝わってきます。気持ちがひとつになるオカリナアンサンブルを目指す今年のテーマは「旅」。「旅愁」など旅にまつわる童謡6曲を披露します。指導の先生から「そこはターンターンタタタタですね！」とリズムのチエツクが入り、楽曲



12月に開催の医家芸術祭音楽部門での演奏風景